

第9回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和6年2月29日（木）15:30～16:30

■場 所：周南市シビック交流センター交流室1

■出席者：下表の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者
周南公立大学 福祉情報学部	准教授	児玉 満	
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明	
徳山商工会議所		船井 辰郎	関係団体を代表する者
周南市社会福祉協議会	業務課地域福祉係長	竹重 紀代美	
周南市体育協会	事務局主任	砂田 優一郎	
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織を代表する者
周南市コミュニティ推進連絡協議会		黒神 充久	
山口県デジタル統括監		田中 貴光	オブザーバー
周南市 ICT 推進アドバイザー		山畑 泰浩	

■配付資料

1. 第9回周南市スマートシティ推進協議会配席図
2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿
3. 第9回周南市スマートシティ推進協議会資料
 - （資料1）今年度の市の取組について
 - （資料2）今年度のモデル地区での取組について
 - （資料3）次年度の取組の方向性について

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員 8 名中 8 名全員の出席をいただいておりますので、周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第 6 条の規定により、本会議が成立していることを報告させていただきます。
- ・ 会議の開催にあたり、本市企画部次長の行富よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部 行富)

- ・ 本日はお忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。
- ・ 前回の協議会では、モデル地区での取組やその他の市の取組の進捗を踏まえ、その方向性について協議していただきました。
- ・ 今回は、モデル地区での取組の進捗報告、次年度の取組の方向性などを主な議題としています。
- ・ 皆様の忌憚ないご意見を賜りますようお願いいたします。

3. 議題

(会長)

- ・ 第 9 回ということで回数も進み、具体的な成果が求められている段階だと思しますので、本日も皆様から積極的にご意見をいただければと思います。
- ・ それでは、議題 1 「今年度の市の取組について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(今年度の市の取組について説明)

(会長)

- ・ モデル地区での取組ではなく市の全体的な取組についての説明ということでしたが、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(委員)

※意見なし

(会長)

- ・ スマートシティ推進シンポジウムには私も出させていただきましたが、先進的に取り組まれている登壇者の皆様からかなり具体的な提言をいただけたのではないかと思います。
- ・ 具体的に動き出すプロジェクトは何かという意見も多かったと思いますので、参考にしながら進めて欲しいと思います。
- ・ それでは、議題2「今年度のモデル地区での取組について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(今年度のモデル地区での取組について説明)

(会長)

- ・ これまでのモデル地区での取組ということで、これまで続けてきたわけですが、特に地元の委員お二人においては、取組への協力もいただいていることから、その実感等から重要なコメントがいただけると思いますので、一言ずつお願いします。

(委員)

- ・ 小学校におけるマップづくりについてですが、実は5年前に周陽地区の自主防災協議会で小学校と共同で安全マップを作成したことがあります。
- ・ 今回は、小学校と保護者のみということでしたが、最終的には児童の声にもあったように、地区には自主防災組織があるので、全員とは言いませんが役員だけでも何らかの形で関わり、小学校が防災の分野でこんな事をしているといったことは知っておきたかったと思いました。
- ・ また、児童の声として「もっと地域の方に知ってもらいたい」とありましたように、今後これを具体的にどのようにして地域の方に知ってもらうのかということところがまだわからないので、考えていっていただきたいと思います。
- ・ モデル地区ということで、周陽地区コミュニティも三世代交流について考えているところなのですが、地区の小学校とどんなふうと一緒にやっていこうか、地域の活性化ををやっていこうかと考えているところです。
- ・ 実際には校長先生によって対応が違うケースもあります。歴代の校長先生の中には非常に地域に溶け込んで、「とにかく一緒にやりましょう。」という校長先生もいましたし、お声掛けしてもそうでもない方もいらっしゃるというように、非常に温度差がある状況です。
- ・ 今回は単年度だったが、この辺も含めて今後は何らかの形で地域の自主防災組織も取組への関わりをもたせていただければ、情報の共有という点でも良いと思うのでよろしくをお願いします。

(会長)

- ・ 非常に良い活動だったと思う反面、ネットの中、学校の中での取組だったことから、これからどうやって地域の方の実感のあるものにしていくかというところは、横展開を考えていく上でも次年度以降さらに深度化させていく上でも、両方の面から非常に重要だと思います。
- ・ どれくらいの実感が得られるものであったのかなど事務局から今の委員のご意見に対してコメント等あればお願いします。

(事務局)

- ・ 今回は、学校と初めてこのような安全マップをつくるという取組をさせていただきました。
- ・ 学校の授業の中ということでしたので、学校関係者の方と調整しながら進めてきたという経緯があります。
- ・ 子どもたちの意見にもありましたし、委員からも自主防災など地域との関わりについてご意見いただきましたので、今後こういったものを地域とどう共有し、一緒に作っていくかという取組、これは安全マップに限った話でもデジタルに限ったことでもありませんが、「学校の授業」と「地域」がどう接点を持ちながら取り組んでいくかということは今後も継続して検討していく課題だと思っています。
- ・ そのようなものを作っていくことが、地域にとっても子どもたちにとっても非常に良いと思いますので、教育委員会やそれぞれの小学校、そして引続き地域の方とも連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

(会長)

- ・ 非常に重要なコメントだと思います。
- ・ ぜひ地元とタッチポイントをつくっていただくこと、それ自身が非常に重要なメディア、こういう活動を共有していく上で重要だと思いますし、この活動自体が非常に素晴らしい取組だと思いますので、そうしたところもぜひ頑張っていたきたいと思います。

(委員)

- ・ 小学校のマップづくりに関して、私も発表会を見に行かせていただいて子どもたちの発表を聞いてきました。
- ・ 他の小学校でもそうだと思うが、手作りでの安全マップは毎年つくっていたところです。今回、デジタルでの作成でありながら、短期間、1回2回の授業でよくまとめられたと思います。

- ・ 最近の子ども達は、タブレットを怖がらずにササッと触れていましたし、実際に我々の方にも触ってみてくださいと回ってくれたりしながら発表会を進めていましたが、非常によくまとめられていると感じました。
- ・ 指導された人の指導法によるものと思うが、良い発表会だと感じました。
- ・ 事務局の説明にもありましたが、子ども達もスマートシティに興味を持てたところとか、せっかくできたマップをどのように活かしていくかというところだと思いますし、毎年続けていくのであればデータ整備の精度をより高めていくということもあると思います。
- ・ ぜひこれは地域だけでなく全市内に共有して欲しいと思います。
- ・ 先ほどもデモで見せていただいた通り、非常によくできています。この短期間で子ども達も地域をよくぐるぐる回って、写真を撮って、整理してくれていると感じましたので、ぜひ今後も市で活かしていただきたいと思っています。
- ・ 河川監視事業については、遠石にカメラを設置していただいているところですが、アンケート結果の説明を受けて、「皆さん、そのように感じていらっしゃるんだな」と受け取りました。
- ・ 生活情報に関するニーズ整理については、これまでも一昨年、昨年とワークショップを実施してきましたが、今年は段取りよく進めていただいてワークショップも非常に濃い内容だったと思います。
- ・ 参加者の皆さんが慣れてきたというのものもあるかもしれませんが、ワークショップを進められる方の手際なども良かったのではないかと思います。
- ・ ワークショップに参加された方は今回整理した生活情報に関するニーズが今後どのように活かされていくのかというところに一番関心を持たれていると思うので、市でどのように進めていかれるのかが大切になるのではないかと思います。

(会長)

- ・ 事務局を担っていただいた事業者の方も、時間がない中で非常にこまめに対応していただいて、昨年度の課題はほぼ解決できていたのではないかと思います。
- ・ 委員が言われたとおり、横展開に向けてもう少しそれを共有していく仕組みであったり、蓄積の仕方とか活用の仕方というところまで課題が見えてきているということ、非常にごもつともだと思いました。
- ・ 今のご意見について、事務局よりコメント等あればお願いします。

(事務局)

- ・ 小学校での取組については非常に高い評価をいただいたと思っています。
- ・ やはり先ほどの意見のとおり、それをどのように地元や他の地域に横展開していきけるかということが、市に課された課題だと認識していますので、教育委員会と連携しながら進めていきたいと思っています。

- ・ 河川監視事業との連携においては、住民の方にアンケート調査にご協力いただき、これまではあまり取れていなかったデータを得ることができたと思っていますし、それをしっかり河川担当の課だけでなく防災担当課など他の課にも共有しながら活かしていきたいと思っています。
- ・ 生活情報に関するニーズ整理については、これまでの取組からすでに強い課題感があったものであり、実装に向けて取り組んでいくことが市として大事だと思うので、市の課題としてしっかり取り組んでまいりたいと考えています。

(会長)

- ・ 他の委員の皆様からもご意見いただければと思います。

(委員)

- ・ 小学校におけるマップづくりについては、先ほど他の委員からもありましたようにたくさんのピンが立っていて、たぶん色んなところに歩いて行って、子ども達が苦勞して頑張ったんだろうなと感じました。
- ・ 大人の目が行かず気付かないところにも子ども達の目が行っているなど、地元の人間ではない私自身も「見てみたい」と純粹に思ったので、ぜひ横展開していただき市民の方々に見てもらえる状態になれば良いなと思いました。
- ・ 児童の声にも「地域の方に知ってもらいたい」「誰かの役に立てばいいな」とあったので、ぜひ役立てていただいて「こういう人に見てもらえたよ」「知ってもらえたよ」ということを子ども達ができることと自己肯定感とか地域への愛着にもつながると思います。
- ・ またそうすることで、将来的には地域に戻ってきてくれて、地域のために活躍してくれる子ども達になると思うので、市内に拡げていただけたらと思います。

(会長)

- ・ 確かに、子ども達がつくったマップに市民の方からたくさん「いいね」が付いていたら嬉しいですね。

(委員)

- ・ 私も周陽小学校の発表会に参加させていただきましたが、非常に良かったと思います。
- ・ 先ほどからの話にもありますが、子ども目線の情報が地域の人にもダイレクトに届くと思いました。
- ・ 周陽地区は野犬が多いから夜の散歩は気を付けてください」、「通学路なので車を運転する人は飛ばさないでください」なども子ども達の声から出ていましたので、直接地域の方が聞かれれば気を付けられると思いますし、取組に地域の人も

加わっていただくことで市がスマートシティの取組をしているということをもっとわかっていただけるのではないかと思います。

(会長)

- ・ 発表会に参加いただき、非常に良かったという点が良く伝わってきました。

(委員)

- ・ 小学校のマップづくりには参加ができていないのですが、子ども達が実感した効果として資料にあがっている3つの中で、特に「情報リテラシーの向上」について、社会人になればパソコンを使い、スマホは皆が持つようになるということを考えれば、日々情報技術が向上する現代において子どもの頃から授業という形で情報端末とかだったりに触れることができるというところが非常に良い取組と感じました。
- ・ また次の議題になるのかもしれませんが、地域の課題解決の部分で「人口減少による過疎化が進んでいる」という課題においては「地域に残っていただく」、「帰っていただく」というものもある。
- ・ 周南市には高専や大学もあるので、学生が地元に残れるようにというところに情報を活用した今回のような取組を活かしていければ良いと思いました。

(会長)

- ・ 子ども達のこういった取組を使って、横展開ではなく縦展開、中学、高校、高専、大学、働いている場、高齢者の方々というように、ALL周南でやっていくというところを見えるようにしていけば、すごく刺さっていくところがあると思いますので、非常に素晴らしいご提案だったように思います。ぜひこういった点も考えていければと思います。

(委員)

- ・ 小学校におけるマップ作りについては、端末をうまく使いこなして色々やっていたということなので、小学生の能力に驚いています。
- ・ マップについても、印は2～3個ぐらいかなと思っていたのですが、さきほど見せていただいて、思った以上に印がたくさんあって、「子ども達も努力したんだな」、「小学生もすごく活用能力があるんだな」と驚かされたところです。
- ・ 気になったところでいうと、中学校で部活動廃止が決まっていると思いますが、それに関係して今後小学校の体育館とかの利用手続きについても拡大されるのかなと感じたところです。

- ・ 生活情報に関するニーズ整理のところで、LINE等々で情報発信を行うというのですが、フェイクニュースなどの間違った情報が拡散されないようなツールで、なるべく早く情報が伝達するようなものの検討も必要だと思います。
- ・ LINEは他の自治体でも活用されていることが多いようなので、他の地域がどのような使い方をしているのかという情報があつたら良いと感じました。

(会長)

- ・ 間違った情報の拡散など、次年度への提案というところもあつたかと思いますが、事務局からコメント等あればお願いします。

(事務局)

- ・ 先ほどの情報発信の取組手法について、我々も情報発信ツールにはそれぞれの特徴があり、長所と短所を持っていると思っていますので、そのツールに合った情報を載せていく、行政だけでなく民間企業や地域団体などの発信者側もそのことを留意しながら情報を発信していくことが大切だと思っています。
- ・ あまり恐れてもいけないし無知でもいけません、情報をどう取り扱うか、行政、住民、企業などの関係者が良く理解しながら上手に活用していくことに地道に取り組んでいかないと、どこかで取組がこけてしまったり、事故等にもつながってしまう可能性がありますので、そういったところも意識しながら取り組んでまいりたいと思っています。

(会長)

- ・ 非常に重要な指摘だつたと思いますし、今後の横展開においては本当に考えるべきことだと思います。

(委員)

- ・ 小学校のマップづくりについては、非常に素晴らしいものができていると感じましたので、今回だけで終わるのではなく、ぜひ続けていく方法を考えていただきたいと思います。
- ・ もちろん他の小学校に広げるといふのも必要でしょうし、公開の仕方についてもいろいろ考えていかないといけないと思いますが、ぜひやって欲しいと思います。
- ・ 河川監視事業との連携については、世代によって求めている情報に差異があるというのは意外だと感じました。
- ・ 若者層とシニア層の考え方が違うことはわかっていたんですが、若者層が避難場所に関する情報や具体的な行動指示を求めている、シニア層があまり求めているというのは、私のイメージ的には逆だと思っていました。

- ・ アンケートの結果が思っていたものと違ったということで、少し考えていかないといけないなと思いました。
- ・ 大学でもパソコン教室をやっていて、高齢者の方いらっしゃるんですけど、パソコンよりもスマホを使いたいと思っ描いていらっしゃる方が非常に多く、LINEの需要はすごく高いと思いますので、LINEを使った何かは今後必要になると思います。

(会長)

- ・ 委員の方からだいぶご意見も出て、今年度は非常に高評価だなという印象ですが、実際に現場を取り仕切ってくださっていた事業者の方から、これまでの委員の皆さんの意見を踏まえて少し補足いただければと思います。

(事業者)

- ・ 小学校におけるマップづくりについては、今回先生方からも意見を頂戴しているのですが、子ども達が単にタブレットを使って作業するだけでなく、グループ内で互いに教えあうことで情報リテラシーを上げていくことや作ったマップを下級生、地域の人など誰に伝えたいのか、こういったマップができていくとどんなまちになるのかを想像しながらマップ作りを行ったことで、目的意識をもって取り組んでいたというところをお伺いしています。
- ・ 生活情報に関するニーズ整理について、ワークショップを通じて住民の皆さんといろいろと意見交換をさせていただきました。上手くいったのは地元の方のご協力があったからだと思います。
- ・ 良かったと思う点としては、今回LINEを使った取組を併せて行っていたことで、ワークショップ当日だけのコミュニケーションで終わるのではなく、次回ワークショップのお知らせやニューズレターという形でワークショップの振り返りを速やかに行うなど、断続的なコミュニケーションをとれたことが皆様の満足度につながったと考えています。

(会長)

- ・ 目的意識を持って取り組めたということと、LINEが使いやすいのでアフターフォローや継続的な取組に発展できそうというところだったかと思います。
- ・ 地味に感じるかもしれませんが、こういったものが周南市で立ち上がってきているということはきちり評価していくべきだと思いますし、これらを継続していくことが周南流のスマートシティを自分達でつくり上げているという実感にもつながると思いますので、事務局の方も自信をもって引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

- ・ それでは議題3「次年度の取組の方向性について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(次年度の取組の方向性について説明)

(会長)

- ・ 今年度の取組が非常に良かったという評価もいただけていますので、できるだけ積み上がっていく方向で考えていただければと思います。
- ・ オブザーバーの方から技術的な面も含めてぜひアドバイスをいただけたらと思います。

(オブザーバー)

- ・ デジタルの取組を進める上では、ユーザー視点で実際に課題を抱える方に対しての取組が重要と考えています。
- ・ ワークショップもそうですが、小学校の取組においても小学生目線で危険な場所等について整理してデジタルを活用して取り組んでいることは本当に素晴らしいと思います。
- ・ 次年度の取組をいろいろと進めていくと思いますが、今年度のユーザー視点の取組の課題に対してどのように取り組むのかが大切だと思います。
- ・ よくアジャイルと言われたりしますが、デジタルを活用した取組はいきなり100点を目指して取り組むのではなく、まずは小さな課題やコアな課題に対して取り組み、課題を見つけながらブラッシュアップしていくという手法の方が、住民の方々に対してもより良いものができると思いますので、ぜひ小さな課題でも怖がらずにスパイラルに取り組んでいただければ良いと思います。

(オブザーバー)

- ・ 今年度の取組は非常に高評価で、非常に重要な実績を構築できたのではないかと思います。ここがゴールではありませんので、今年度にあがってきた課題を次年度に向けて解決していくことが次年度の取組につながっていくと思います。
- ・ そのためにも情報発信は非常に重要です。例えば、河川監視事業においては監視することがゴールではなく、その情報をいかに迅速に展開して事故なく皆さんを誘導するかというところがゴールだと思いますので、それを実現するためにはどうすれば良いのかを考えるということになると思います。
- ・ これまでのお話でもあったように、いろいろな自治体でLINEが活用されていますが、やはり住民の方が情報を取りに行くのではなく、自然に情報が集まってくるような仕組みづくりが重要だと思います。

- ・ L I N Eひとつですべての情報がわかるというのが住民の方が望んでいる形だと思しますので、先ほども申し上げましたとおり、情報を取りに行くのではなく自然に情報が入る仕組みを構築していくことが必要で、そのためにはデジタル・ディバイドなどの出てきた課題をひとつずつ解決していくことが重要ではないかと思えます。

(会長)

- ・ 非常に参考になるご意見をいただきました。
- ・ 他に次年度の進め方についてご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(委員)

- ・ お願いにはなるが、野犬対策でクラウド型カメラを運用中ということでしたが、カメラを設置し運用した結果どうなったのかということ、日々野犬に悩まされている地域に還元をしていただきたいと思います。
- ・ そうすれば住民の方に対しても説明ができると思えますので環境政策課の範疇なのかもしれませんが、よろしくをお願いします。

(会長)

- ・ 確かに何か取り組んだら、その結果を地域の方々と共有していただくことが広がっていく上では重要ということだと思います。
- ・ 先ほど L I N E のお話がありましたが、それ以外も含めてぜひお願いできればと思います。
- ・ 今年度の取組、そして次年度の取組については委員の皆様概ねご了承いただけたのではないかと思いますし、昨年度と比べれば実直に積み上げた結果が出てきていると思います。
- ・ これを多くの方に知っていただくということと、一足飛びにはいきませんが A L L 周南で取り組むということに、この頑張りをつなげていただきたいと思います。
- ・ それでは、進行を事務局にお返しします。

(事務局)

- ・ 関係団体や地域の皆さまにおきましては、本年度の各取組において多大なご協力いただきましてありがとうございました。
- ・ 今後も引き続き、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。
- ・ 第 1 0 回の協議会の開催日時は確定次第ご連絡させていただきます。

6. 閉会

(事務局)

- ・ 以上で第9回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。

以上